



▼授業でのICT活用方法について意見交換する甲佐中の教員ら



研修を終えて、甲佐中の杉山優太先生は「1学期はICT活用の試行錯誤でした。この研修で学んだことを今後の授業に活かしていきたいです」と今後の抱負を語りました。

その後、授業でのICT活用案を検討し、グループでの意見交換を行いました。

ICTを教育に活かすために

教職員ICT利活用研修会

7月27日（火）町内の各小・中学校で教職員ICT利活用研修会が開催されました。町教育委員会（蔵田勇治教育長）と、GIGAスクール構想に伴う高速通信ネットワークの利用契約を結ぶNTTドコモなどが実施。1人1台端末整備といった教育へのICT導入が進む中、授業での効果的な活用を進めようと、町内小・中学校の教職員を対象に、各学校をオンラインでつないで実施しました。

参加者はまず、教育ICTの最新動向や授業での活用事例について説明を受け、タブレット端末の操作演習を通して基本操作について確認。

窓の事故を未然に防ぐために

YKK APが小学校低学年向け冊子を制作

6月24日（木）甲佐町役場本庁舎で、YKK AP（株）が制作した「うんこおうちの安全ドリル まどとドア編」の贈呈が行われました。

冊子は、同社が子どもたちに窓やドアの安全な使い方を楽しく学んでもらおうと「うんこドリル」シリーズを出版する（株）文響社と協業で製作し、国内製造拠点の近隣小学校に配布。同社熊本甲佐工場（津志田）を管轄する九州製造所の村上肇製造所長が奥名町長に町内小学1～3年生264人分を届けました。



▲奥名町長に冊子を手渡す村上肇九州製造所長（左）



▲故山崎警部補慰霊碑に敬礼する御船警察署員ら

地域の安心を守る誓いの日

故山崎警部補慰霊祭

7月31日（土）仁田子の緑川河川敷に鎮座する故山崎貴仁警部補慰霊碑で、慰霊祭が開催されました。

慰霊祭は、昭和44年7月31日に大雨で増水した緑川の中州で助けを求める中学生の救助活動で殉職した山崎警部補の意思を受け継ぐために御船警察署（松村英志署長）が毎年、警部補の命日に行っており、松村御船警察署長や同署員が参列しました。署員らは慰霊碑周辺の除草作業で汗を流したあと、全員で黙とう。園田勇樹さん（辺場区）が慰霊碑に地域の安全を守る誓いの言葉を読み上げ、参列者は決意を新たにしました。

農業への理解を深めよう

上益城農業協同組合が児童に食農教育雑誌を贈呈

7月5日（月）町教育長室で、食農教育雑誌『ちゃぐりん』の贈呈が行われました。

同誌は、（一社）家の光協会が発行する月刊誌で、農業の大切さや自然との関わり、共生の役割などについて次代を担う子どもたちに理解を深めてもらうことを目的に発行されています。

上益城農業協同組合（田原要一代表理事組合長）の松岡勇治代表理事専務から、町内4小学校の4年生97人分が蔵田勇治町教育長に贈呈されました。



▲ちゃぐりんを贈呈する松岡勇治代表理事専務（右）



▲空堀で上高原さんの解説を聞く甲佐小児童たち

陣ノ内城跡について学ぶ

甲佐小児童が地域の史跡を見学

7月7日（水）豊内の陣ノ内城跡で、甲佐小4年の児童37人が見学を行い、地域の歴史について学びました。

地域について学ぶ総合学習の一環で同小（武永春美校長）が実施。児童らは学校から徒歩で高台に位置する城跡まで移動しながら、地形や位置関係を確認し、城跡に着くと、講師を務めた町教育委員会の上高原聡さんが城内を案内しながら、空堀の大きさや城跡の広さについて解説しました。

子どもたちは、土塁の上から空堀の深さや甲佐の街並みを見下ろしながら、築造当時に思いを巡らせました。

甲佐中生徒に学びの機会を

甲佐町地域未来塾



▲町内在住の大学生や塾講師などの協力により開催された学習会で数学や英語について学ぶ甲佐中生徒たち

8月27日（金）甲佐中学校で「甲佐町地域未来塾」の開塾式が行われました。

同塾は、甲佐中生徒の学力および地域の教育力の向上を図ることを目的として開塾。町内在住の大学生や民間教育事業者などの協力を得て、同中（永瀬善久校長）の生徒に学習機会を提供しようと町教育委員会が主催。同中生徒で受講を希望した約60人が、数学と英語の学力向上に取り組みました。

授業は7月中旬から8月末までの夏休み期間を利用して全14回の日程で実施され、学習支援の調整役を担うコーディネーターと学校が連携して生徒一人一人の学習をサポート。授業1コマに対して、塾講師、同中特別支援員、ALTなどで構成される学習支援員2～3人が担当し、生徒たちは1学期の学習項目の確認や課題の克服のため学習を行いました。

参加した福島音芭さん（甲佐中2年・緑町区）は「苦手だった問題の解き方のコツがつかめたのでよかったです」と笑顔で話しました。